

## 東京ワークショップ

葛西臨海水族園（2003 年 3 月 13-15 日）

### ■検証プログラム

#### 「オリエンテーリング」

⇒『新しい教育プログラム』p.89（2001 年度 日本動物園水族館協会 教育推進事業報告書）

⇒ [http://www.jazga.or.jp/new\\_kyouiku\\_p/teian/syuukyaku\\_03.html](http://www.jazga.or.jp/new_kyouiku_p/teian/syuukyaku_03.html)（日動水 web サイト内）

### ■日程

2003 年 3 月 13 日（木）

|             |                           |
|-------------|---------------------------|
| 13:00-13:30 | 受付                        |
| 13:30-13:45 | オリエンテーション                 |
| 13:45-14:00 | ワークショップの概要説明              |
| 14:00-14:30 | 水族園オリエンテーリングの企画意図         |
| 14:30-16:00 | オリエンテーリング実施状況視察<br>展示概要説明 |
| 16:00-19:00 | 質疑応答<br>改善方法の検討           |

2003 年 3 月 14 日（金）

|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| 9:00-12:00  | 改善方法・評価方法の検討・討議<br>改善方法の具体化・パネル作成 |
| 12:00-13:00 | 昼食                                |
| 13:00-14:00 | 改善方法の報告                           |
| 14:00-16:30 | 検証オリエンテーリング<br>実際に実施し、評価する        |
| 16:30-19:00 | 実施結果報告                            |

2003 年 3 月 15 日（土）

|             |                                         |
|-------------|-----------------------------------------|
| 9:15-10:15  | 講演「動物園における来園者調査の実際」<br>並木美砂子（千葉市動物公園協会） |
| 10:15-11:45 | 総合討論<br>終了後、シンポジウムへ移動                   |

## ■概要

東京都葛西臨海水族園（以下、水族園）で、毎週土曜日のイベントとして行われているオリエンテーリングを検証し、改善方法を検討する。実際に改善方法を試行し、その評価を行う。画期的なWSと言える。

参加者は20人（園館関係者）。1日目は、オリエンテーションと現行のオリエンテーリングの見学を行い、感想などを出し合った後、クイズ別、評価手法別にグループを作成した。

2日目は、班毎にクイズの改善方法、評価方法話し合い、実際に試行し、その評価を発表した。

3日目は、並木美砂子さん（千葉市動物公園協会）に、動物園における来園者調査の実態についてご講演いただいた。その講演内容と、前日の評価分析を元に、より良いオリエンテーリングにするためのアイデアを出し合った。終了後、シンポジウムの会場へ移動した。

## ■オリエンテーション

まず導入として、WSというグループワーキングの手法に関する解説を行った。

ついで、水族園で毎週土曜日に実施している、水族園オリエンテーリングの企画意図・経緯などが話された。

主催側・参加側ともにこのような取り組みには不慣れであったが、手探りの中協力しながら進めていった。

## ■オリエンテーリング実施状況見学

職員の案内のもと、クイズの意図や表示方法、一般来園者がオリエンテーリングに取り組む様子などを見学した。

入り口で解答用紙を入館者に配布する。オリエンテーリングは9問のクイズからなり、解答



オリエンテーション



まずは現行のオリエンテーリングを見学



職員からの解説も受けながら



水槽のどこに掲示されているかも重要



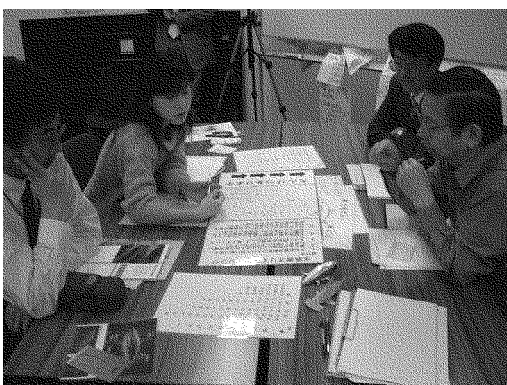
現行のオリエンテーリングの感想を話し合う



感想と同時に、多くのアイデアも出された



班毎に分かれて、問題の改善



具体的にどこを直せば良いかを話し合う

用紙に答えを書き込んでいく。出口で解説を行い、全問正解者に景品を渡す。

通路が狭いことや、導線との関係、クイズを掲示するには館内が暗いことなど、職員と話し合いながら参加者の様子を観察した。

## ■課題・評価・進め方の検討

実施状況を見学した感想を出し合った。オリエンテーリングの意図、表示方法や参加率などの課題、評価方法などに関する意見が出た。

その後、グループ分けの方法と、検証に向けたWSの進行方法を話し合った。

来園者の観察を深めるという目的の明確化、クイズの表示方法と解答用紙の大きさ、評価の目的や方法などの具体的な議論がなされた。1日目は予定を大幅に延長しての終了となった。

## ■クイズの改善

WS参加者約20人を3グループに分け、クイズの改善を行った。対象動物は変更しないという前提のもと、それぞれ3問ずつクイズの改善方法を話し合った。また、実際に話し合われた改善方法を元に新しいクイズパネルを作成した。

クイズの内容から、言葉遣いや字体、ビジュアル的な工夫まで、様々な案が提案された。具体的な改善方法は以下の通りである。

オリエンテーリングの案内

⇒文字数を減らし見やすく。

解答用紙に色をつけ、大きく。

問1. 鯊の歯で正しいものはどれでしょう？

⇒ビジュアル的に表現。問題は変えず。

問2. 北海の水槽の中にターボットとプレイスは何匹いますか？

⇒何匹いるかではなく、見つけ方を探す。

問3. 「カリブ海」のブルータンクの尾ビレの付け

根にある白いものは何でしょう？

⇒魚がわかりにくいので写真を添付。

問 4. マグロのひれについて正しいものはどれでしょう？

⇒より具体的に第一背ビレの使い方を聞く

問 5. 写真のペンギンはなにをしているでしょうか？

⇒ペンギンが鳥であることの特徴をわかってもらうような設問に。解説に羽毛を使う。

問 6. 「海藻の林」のジャイアントケルプの葉のつけねにある丸いものは何でしょう？

⇒「丸いもの」がわかりにくいので図示。

問 7. 新規設問

⇒タマカエルウオの食べ物を問う。

問 8. 「アマモ場」にいるマナマコはどのようにしてエサを食べるのでしょうか？

⇒口の場所を探してもらう問題に。

問 9. ペンギンと、ウミガラスやエトピリカとの共通するところはどこでしょう？

⇒ウミガラス・エトピリカの泳ぎ方を聞く。

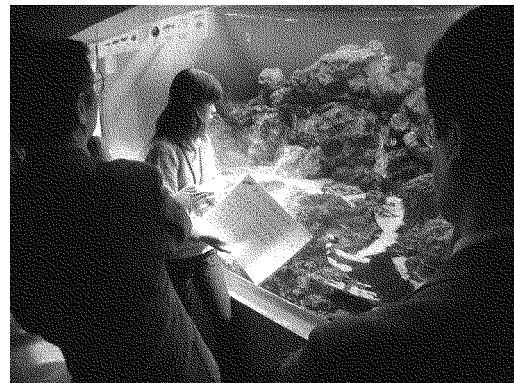
## ■評価方法の検討

会話聴き取り・追跡・アンケートの 3 つの評価方法を、グループ（クイズを改善したグループとは別の分け方）毎に具体的に話し合った。

聴き取りグループは、数ヶ所に分かれ定点で参加者の会話を聴き取る。追跡グループは、あるゾーンでの滞留時間を計測する。アンケートグループは、参加者への事後アンケートで、クイズの中で面白かったこととその理由を聞くことになった。

## ■試行と評価

作成したクイズを実際に園内に掲示し、来園者には通常通りオリエンテーリングに参加してもらった。



話し合いの途中でもう一度展示を見る



改善した問題の評価方法も話し合う



どのように改善したのか発表



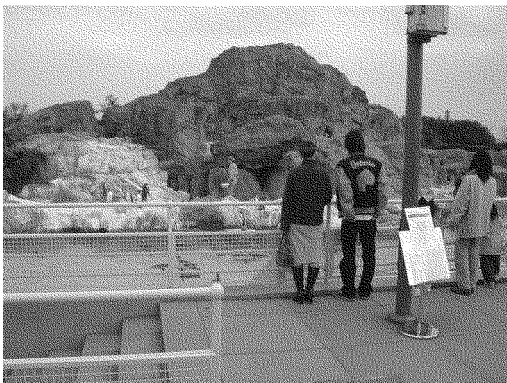
改善後に実際に試行し、一般来園者が参加



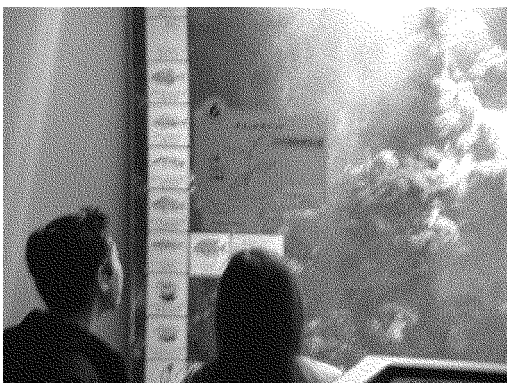
改善後の問題に挑戦する来園者



その様子を観察するWS参加者



設置場所も移動



利用状況の評価が楽しみ

WS 参加者はその様子を観察し、グループに分かれ3つの手法で来園者調査を行った。

## ■評価分析の報告会

会話聴き取りグループからは、「クイズ参加者はクイズしかせず、対象動物以外の動物は観察しない」「参加者じゃない方がまんべんなく展示を見ている」「クイズを行うことにより、来園者の観察がおろそかになってしまう」などの分析がされた。

追跡グループは、参加者 14 人と非参加者 13 人の滞留時間データを計測した。その分析の結果、聞き取りグループとは逆に、クイズを行うことにより、若干滞留時間が延びることが報告された。

アンケートグループは、21 名のアンケートを回収した。その報告からは、クイズの難しさと面白さとの関係などが考察された。

評価を通じて、改めてオリエンテーリングの教育効果を考えることができた。また、その手法を話し合うことで、評価することの重要性、難しさなどを理解することができた。しかし残念ながら、今回の改善によりどの程度教育効果を上げることができたのかまでの評価はできなかった。

## ■ディスカッション

最終日はまず、並木美砂子さん（千葉市動物公園協会）より「動物園における来園者調査の実際」と題してご講演をいただいた。展示評価と来園者理解の関係、展示評価で評価しようとしているもの、プログラムツールとしての展示評価などについてわかりやすくお話しいただいた。

その後まとめとして、評価から明らかになった課題と、その更なる改善方法を話し合った。



## ■まとめ

### ～開発プログラム実践と教育事業推進～

オリエンテーリング自体は、クイズラリー等の名称で多くの園館で実施されている。今回はその実施目的の明確化と評価・改善の手法を検討するWSとなった。

この一連の作業は単に水族園のプログラム改善を行っただけでなく、今回参加した園館関係者が自分の園館のプログラムを評価・改善する際に、非常に有益なものとなるだろう。

## ■記録

### 開催協力

東京都葛西臨海水族園

### 検討委員

坂東元（旭川市旭山動物園）

坂本和弘（東京都葛西臨海水族園）

佐藤哲（WWF ジャパン）

### 記録撮影

赤見朋晃（ズー サポート ネット）

### 配布資料

スケジュール

参加者名簿

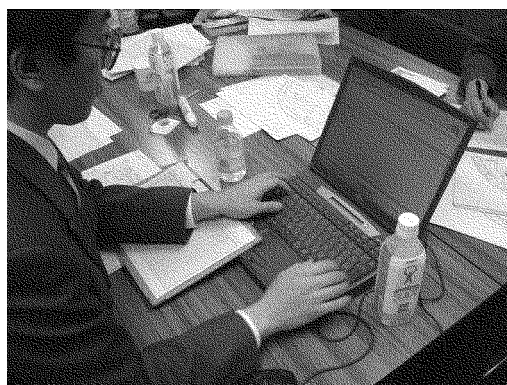
リーフレット

ワークショップの意義

オリエンテーリング参加者推移

来園者調査結果

展示評価と来園者理解について



利用状況調査の結果を分析する



評価の発表



来園者調査についての講演



最後にふりかえりを行う